



骨と関節をイメージした
整形外科アピールマーク

しょう に こっ せつ 小児の骨折



「運動器の健康」世界運動
動く喜び 動ける幸せ

● 症状 ●

骨折した部位の痛みや腫れが起こりますが、小児の骨折では腫れが少なかったり、骨折していない部位の痛みを訴えたりすることがあり注意が必要です。乳幼児では、症状をうまく表現できないことも少なくありません。「触ると泣く」、「手を使わない」、「足に体重をかけられない」などの症状があれば、整形外科を受診しましょう。



正面像

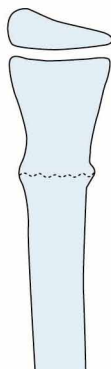


側面像

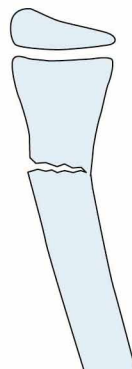
前腕骨骨折

● 原因・病態 ●

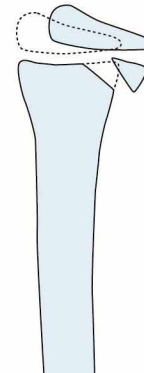
成長過程にある小児では、成人とは異なる特徴的な骨折が起こります。骨に弾力性があるため、隆起骨折や若木骨折という骨折が起こります。また、細胞が分裂して骨が成長する成長軟骨板という部分を損傷することがあります。



隆起骨折



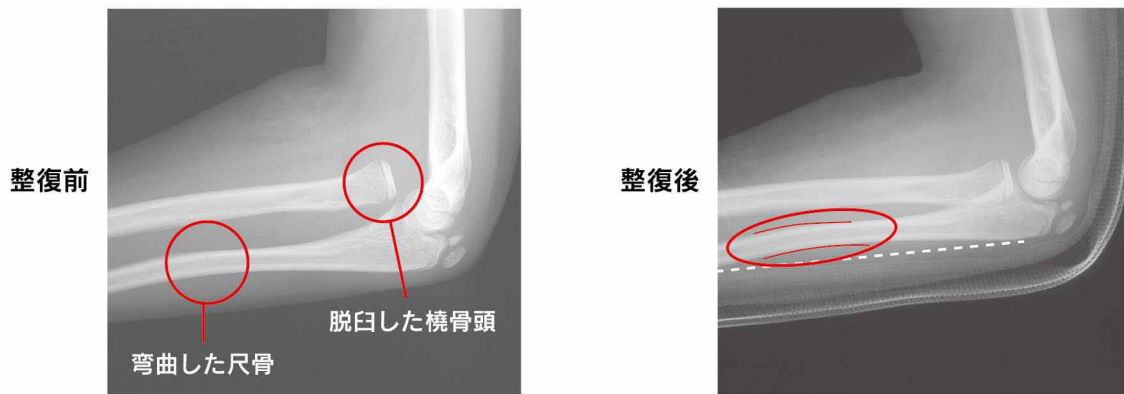
若木骨折



成長軟骨板損傷

● 診断 ●

X線を撮影して診断します。小児の骨折はX線で判別しにくいことが少なくないため、けがをしていない側のX線も撮影して比較することがあります。また、けがをした直後のX線で骨折がなくても、数週後に改めて撮影したX線で骨折が診断できることもあります。骨折に関節の脱臼を伴うこともあります。



尺骨の弯曲変形による橈骨頭の脱臼を起こしたモンテジヤ骨折の症例

● 治療 ●

ギプスなどで固定する保存療法と手術療法があります。小児の骨折は、変形して骨が癒合した場合でも、成長に伴って自然に矯正される(自家矯正)能力が高いのが特徴です。そのため、多少のずれがあっても保存療法で治療することがあります。ずれが大きいときや神経、血管の損傷が疑われるときなどは手術を行います。成長軟骨板を損傷すると、骨折が治った後にも骨の成長が障害されて変形が起きることがあります。骨折後1～2年は定期的な通院が必要です。

